

平成17年度 岩手県工業技術センター事業計画

定員 70名

予算 1,117百万円

平成17年 3月18日
所 長

= 目 次 =

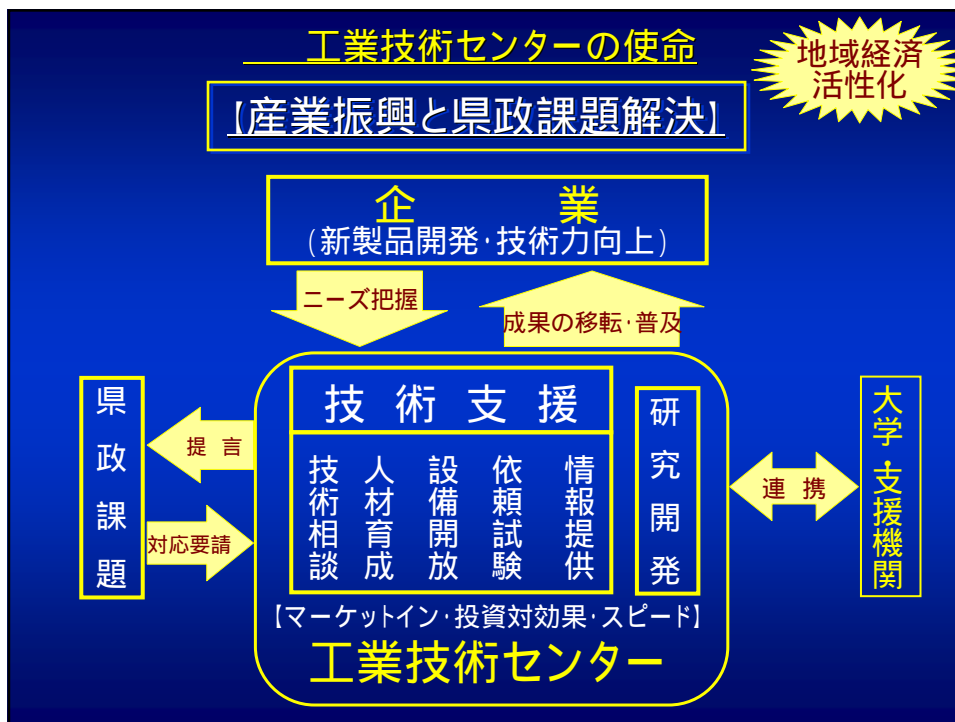
・ 当センターの使命

・ 事業方針

1. 現状認識
2. 基本方針
3. 行動指針

・ 事業計画

1. 組織・人事
2. 予算
3. 支援業務
(1) 技術相談 (2) 企業訪問 (3) 人材育成 (4) 起業化支援
(5) 設備開放 (6) 依頼試験 (7) 情報提供
4. 研究業務
5. 計量検定業務
6. 知的財産権
7. 外部機関との連携
8. 環境管理 (ISO14001 ・ 安全衛生管理)
9. 付属資料 (来訪者数のトレンド等)



事業方針

1. 現状認識

(1) 県内の経済情勢

関東自動車工業(株)様での大增産に伴う産業振興
花巻空港滑走路の2,500メートル化に伴う海外路線の拡大
NHK大河ドラマ「義経」効果による観光客の増加。

↓

しかし、産業界全体としては、依然として苦戦

(2) 平成17年度県の財政(7,671億 6,500万円)

依然として厳しい状況 → H16当初予算比 1.6%
4年連続のマイナス規模

(3) 平成17年度商工労働観光部業務方針

➡ 21世紀型の新しい産業先進県

- 自動車産業関連の集積を通じたものづくり基盤の構築
- 多様な連携・交流による産業ネットワークの構築
- いわての特性を活かした食品関連産業の振興
- 県内産業の国際化の促進

(4) 当センターの現状

支援業務 - 量から質への転換

研究業務

H14 - 種蒔き

H15 - 政策形成プロジェクト事業として 芽を出す

H16 - 花を咲かせる(4/10 プロジェクト終了)

H17 - 花を咲かせつつ、新たな種蒔き

(6/10 プロジェクト終了、新規主要研究7件)

節減・増収努力見返り予算（リットシステム）の活用

H15節減・収入増  H16.9補正 : 4,300万円
H17 : 4,000万円

- ・ お客様の不便解消 : ダイヤルインシステム(H16)
- ・ 「売れてなんぼ」の支援 : 市場化支援事業(H16 「和音」等、H17)
- ・ 機器整備
研究開発設備の導入(H16 「高周波プレス」等)
依頼分析用機器の更新(H17)
- ・ お客様の戦略的獲得 : 顧客管理システム(H17)
- ・ 所内競争型研究創設
シーズ型基盤研究(H17)、競争型テクノブリッジ共同研究(H17)

職員貢献度評価

- ・ H16 - 研究員（研究部長除）を対象に試行
第一評価：担当部長 部員面接により貢献度把握
第二評価：副所長 部長面接で部間調整
内 容：5 業務（支援、研究等）を加点评価
（6 / 末）、全員に結果を報告。



評価システムは概ね妥当。更に、改善を図りながら運用を継続。

- ・ H17 - 総務、企画、管理者等へ拡大

2. 基本方針

(1) 当センター発の技術や開発製品の市場化支援強化

“ どんなに素晴らしい支援・研究でも売れてなんぼ ”
(特に、H16、H17終了の10研究
プロジェクトについて追跡)

デザイン部門は、企業ニーズを的確に捉え、各部横断的な
取り組み

産業振興課、観光経済交流課、(財)いわて産業振興
センター等との協力体制強化

(2) 連携拡大による新たな技術、産業創出

海外も視野に入れた北東北など広域連携の推進

- ・ 大連経済事務所開設に伴う海外連携
- ・ 初の青森、秋田、岩手3県公設試人事交流の実現

産学官 + 地域連携の推進

- ・ 地域と連携した産学官交流会等開催

個別プロジェクト(酸化亜鉛、自動車、ものづ
くり革新事業ほか)の産業クラスター化

(3) 地方独立行政法人化に向けた 強固な体制作り

いわて型独法化を目指す

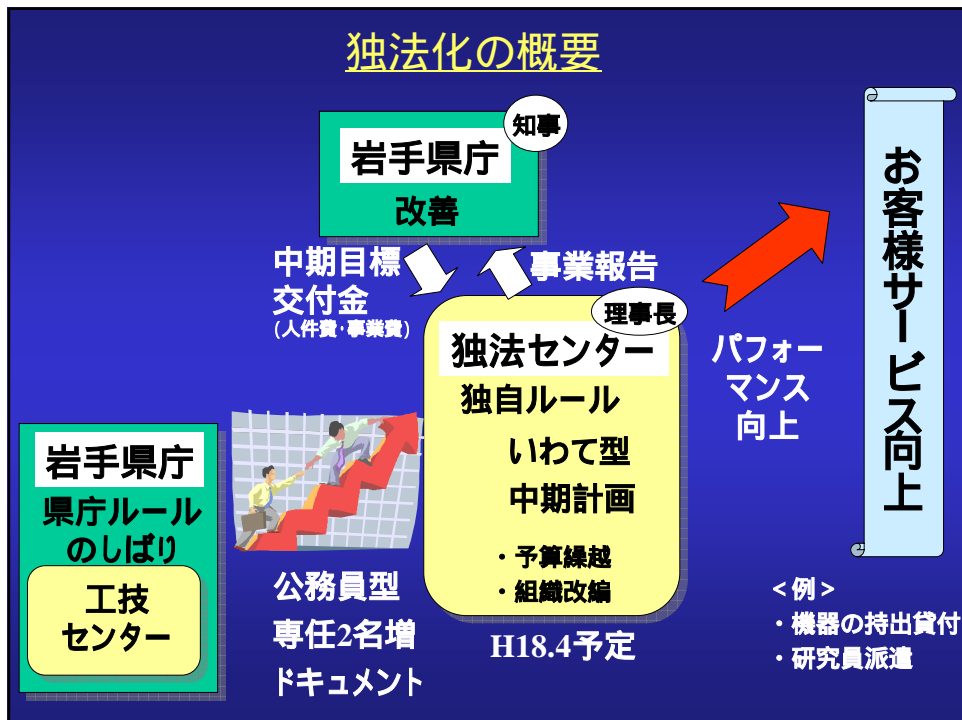
独法化専任職員の配置

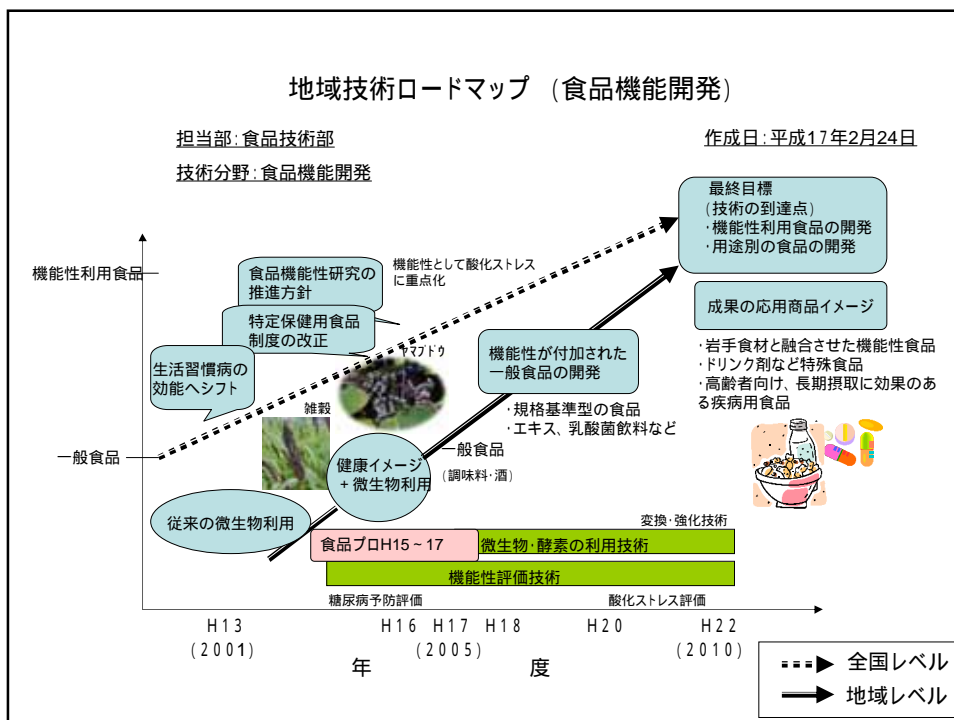
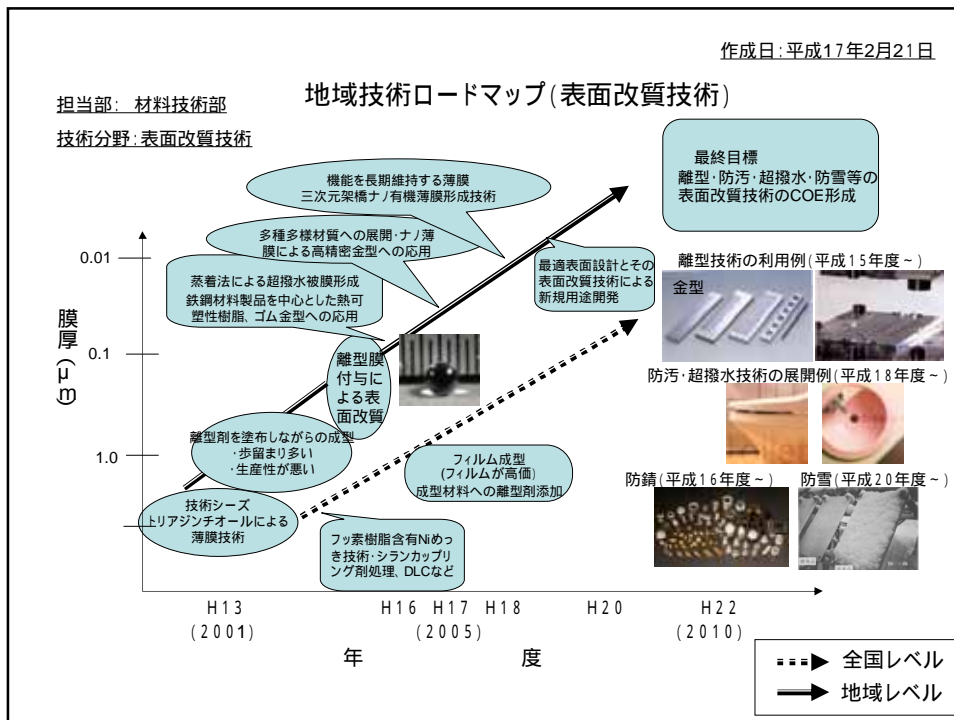
中期計画の策定

技術ロードマップ

企業ニーズアンケート

顧客リスト作成



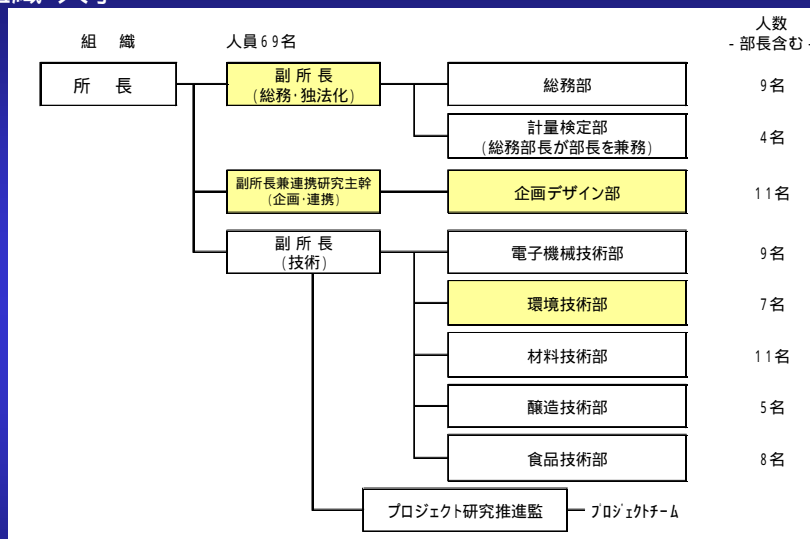


3 . 行動指針

- (1) すべてをお客様の視点で
(“ マーケットイン ” 思想の深耕)
- (2) 投資と効果の明確化
- (3) スピードを重視し、
守りから攻めへの転換

1. 組織・人事

事業計画



1. 独法化体制及び連携機能強化 担当副所長を配置
2. デザイン部門を顧客ニーズに直結 企画部門に統合、連携担当者を設置
3. 企業訪問ニーズ・県政課題に迅速対応 環境技術部新設

2. 予 算

年度別最終予算(案)

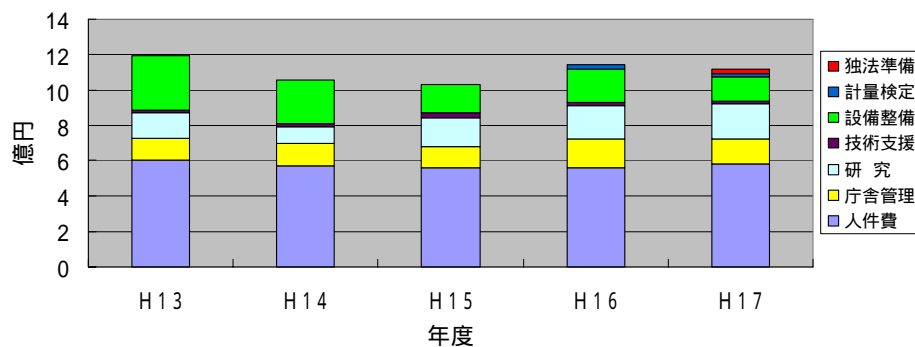
(単位:百万円)

項目	H13		H14		H15		H16 A		H17 B		比較 B - A
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	
人件費	601	50.5%	571	54.2%	559	54.3%	559	49.0%	586	52.4%	27
庁舎管理	129	10.9%	129	12.3%	121	11.8%	160	14.0%	137	12.3%	23
研究	142	12.0%	92	8.7%	164	16.0%	189	16.6%	191	17.1%	2
技術支援	15	1.3%	20	1.9%	29	2.8%	21	1.8%	23	2.0%	2
設備整備	303	25.4%	241	22.9%	156	15.2%	190	16.7%	135	12.0%	55
計量検定							22	1.9%	18	1.6%	4
独法準備									27	2.4%	27
合計	1,190	100.0%	1,053	100.0%	1,029	100.0%	1,141	100.0%	1,117	100.0%	24
							(43)		(40)		
職員数	68		66		66		69		70		1

(注1) H17は当初予算額(案)

(注2) カッコ書き部分は、節減・増収努力見返り予算(内数)

工業技術センター予算年度別推移



H17当初予算(案)の特徴

- ・ 総予算は、前年比 - 2.1% (ZnO関連設備整備の減等による)
- ・ H18の地方独立行政法人への移行に向け、準備経費として27百万円を予算措置
- ・ 研究費は過去5年間で最大
- ・ 設備整備費は過去5年間で最低

3. 支援業務

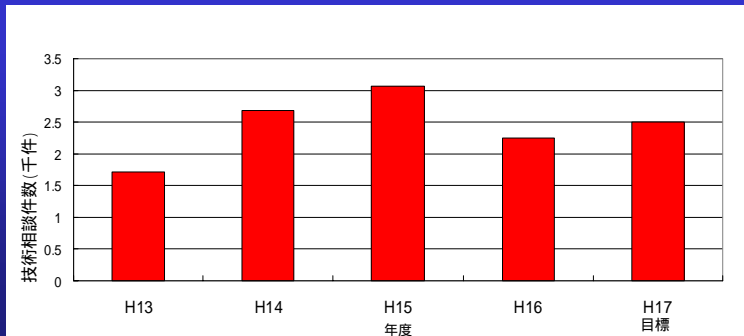
(1) 技術相談

H16実績: 2,254件 (目標: 2,300件)

- ・企業訪問の重点化及び熟練研究者の異動等により前年に比べ減少
- ・現状の相談カードでは同一企業における相談履歴の追跡が困難

H17計画: 2,500件 (前年度比: + 9%)

- ・企業支援システム (H16.10導入) による相談履歴情報の所内共有化
- ・ダイヤルインによるサービスの向上
- ・ダイレクトメールによるセンター業務のPR



(2) 企業訪問

H16実績: 310社 390件 (目標: 300社)



その結果

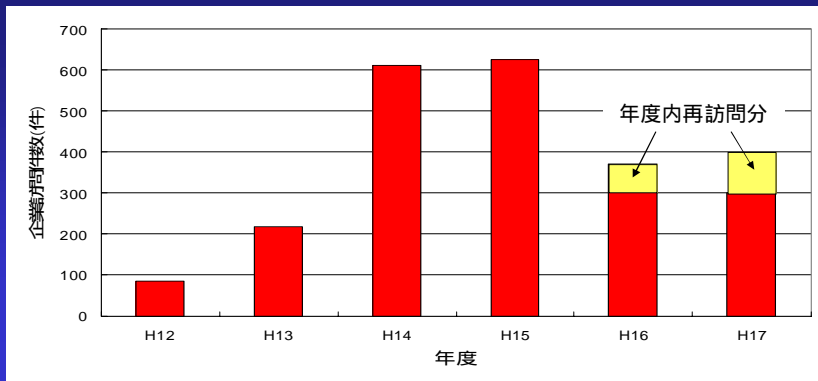
年度内繰り返し訪問の増加

42社 (全体の14%) 115件
 < 効果 >
 ・現場支援の充実 (内容、スピード)
 ・センター人材の総合活用の促進
 ・共同研究化へのスピードアップ

共同研究要望の増加

< 次年度要望 >
 H14: 14件
 H15: 36件
 H16: 77件

課題: 外部資源の活用 (経営、知財、開発資金)



H17計画: 300社(400件)

・「ご用聞き」から「パートナー」への関係構築



地域支援機関との連携強化が必須

(他機関との同行、年度内再訪問の積極実施、地域産業・業界ニーズの把握)

(3) 人材育成

(3)-1 テクノブリッジ推進事業

H16実績

- ・ 4月1日事業開始(4ヶ月早期化、成果移転の迅速化に対応)
- ・ 効果の把握(3年連続参加企業8社の回答)

利用目的: 新製品開発、製造技術開発、データ収集 の順
 効果 : 目的達成度84%、費用対効果約5倍(1億円)

H17計画

- ・ 満足度、企業要望が高い長期の受入数を増加
- ・ 高額(約100万円)対応の枠新設、大型・高度課題の対応強化。

テクノブリッジ件数

	H14	H15	H16	H17(目標)
長期(件)	33	43	34	40
短期(件)	27	28	30	25
講習会等(回)	17	17	14	15

(3) - 2 研修生受け入れ

H16実績

- ・ 学生については、センター主導テーマへの受け入れ優先
- ・ 人材養成をしつつマンパワー補強で研究スピード化

H17計画

- ・ 学生の受入は大学と共同研究契約を締結し、研修生から共同研究員へ移行

研修生受入数

研修生派遣元/派遣目的	H14	H15	H16	H17 (目標)	
企業・自治体	4	6	5	5	
大学	センター主導	0	4	8	4
	外部主導(インターンシップ)	15	21(6)	5(3)	5(3)
計	19	31	18	14	

(4) 起業化支援

(高度技術者起業化支援事業 = 工業技術センター発ベンチャー)

H16実績

県内で起業を目指す技術者2名を受入、H16.6から事業開始

原田氏: 硼化物超伝導体を用いた超伝導デバイスの開発

- ・ SQUID等への応用技術を確立、国際特許出願予定

大宮氏: 乾式トリアジンチオール皮膜によるモールド金型の離型性改善

- ・ 電子部品関連モールド成型金型の長寿命化を目指し成膜研究中

H17計画

起業パートナーとユーザー確保のための産産連携、制度資金導入による研究と事業化の支援

原田氏: デバイス試作とユーザーによる評価、海外展開検討

大宮氏: 実製品による耐久性試験と品質保証技術の確立

- ・ 経営面については(財)いわて産業振興センターが支援

(5) 設備開放

(5) - 1 設備利用

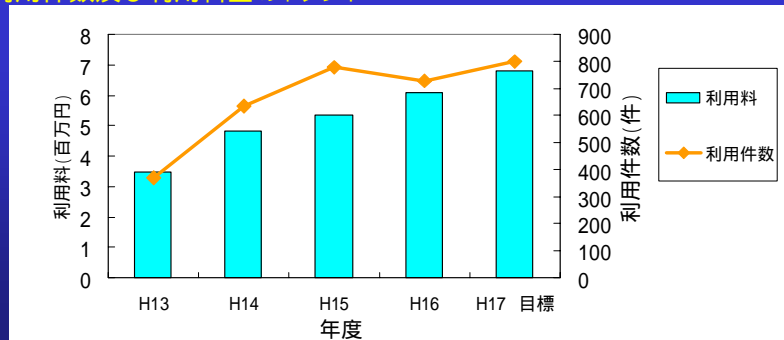
H16実績 726 件(目標:720 件) 6,101 千円(目標: 6,200 千円)

- ・ 24H機器設定、料金見直(単価100円単位)で利便性向上
- ・ 寿命試験機器(熱衝撃等37%)、分析機器(蛍光X線等35%)が主なもの

H17計画 800 件(前年比+10%) 6,820 千円(前年比+10%)

- ・ 分析機器等講習会開催で利用拡大
- ・ 企業訪問・ダイレクトメールによるPR

利用件数及び利用料金のトレンド



(5) - 2 電波暗室利用

H16実績 73 件 (目標: 90 件)

4,160 千円 (目標: 5,000 千円)

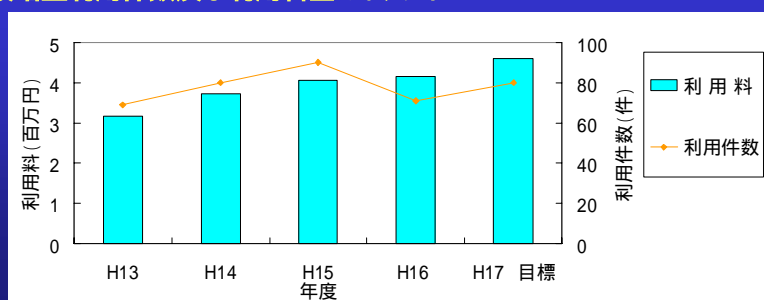
- ・ 青森県工技セ(暗室未設置)にPR依頼 パンフレット配布
- ・ 利用料の変更(時間単価 8,140円 10,000円)
- ・ 県外(青森、宮城)企業割合が増加傾向(H15:30% -> H16:45%)

H17目標 80 件 (前年度比+12%)

4,640 千円 (前年度比+11%)

- ・ 宮城工技セにパンフレット設置依頼
- ・ 中期計画で、10GHz化検討

電波暗室利用件数及び利用料金のトレンド



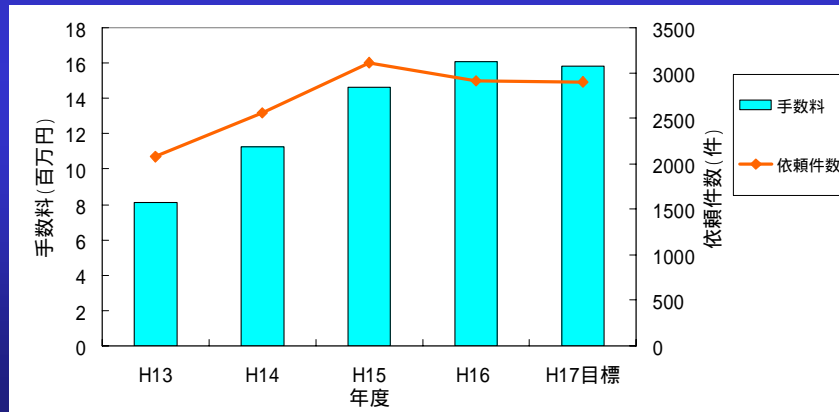
(6) 依頼試験

H16実績

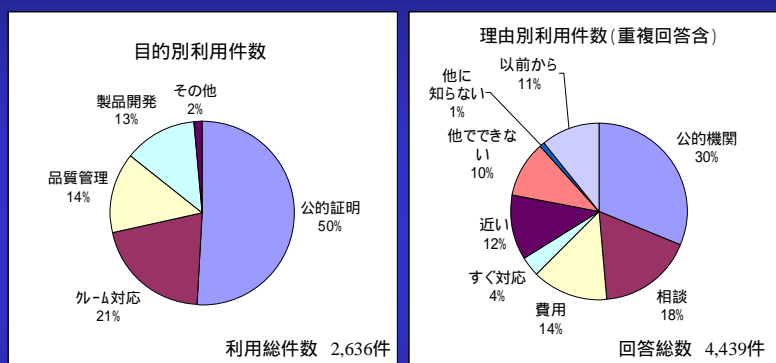
2,911件 (目標: 2,900件) 16,074千円 (目標: 15,000千円)

- ・ 料金見直し(単価100円単位)で利便性向上
- ・ 件数100件減 (大口顧客が分析機器を自社導入)
- ・ 定量分析と定性分析 (手数料の55%、件数の45%) が主なもの。

依頼試験件数及び手数料のトレンド



- ・ 利用目的の調査 (調査日: 平成17年2月)
公的機関としての役割、相談による支援が期待されている。



H17計画

3,000件 (前年度比 +3%) 16,000千円 (前年度と同数)

- ・ 依頼試験班の体制強化
- ・ 中期計画において、人材及び設備強化の検討

(7) 情報提供

ホームページでの
各種データベース公開
(試験機器情報、業務年報、研究報告、
技術情報誌など)

情報定期便(メールマガジンの
毎月発行)

センター利用ガイドブック
の発行、研究報告、業務年報
(CD-ROM)の配布
技術情報誌、研究成果集の発行



岩手県工業技術センター利用ガイドブック
研究報告・業務年報(CD-ROM)

4 研究業務

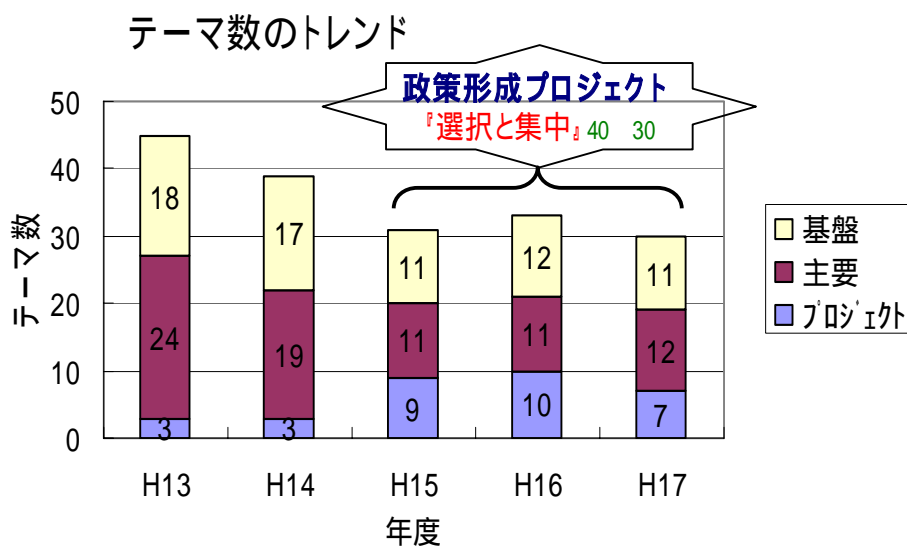
1. プロジェクト研究 (予算額: 130,786千円)
県政課題で重要な研究
部を超える研究
緊急を要する研究
2. 主要研究 (予算額: 33,100千円)
予算規模が一定以上の研究
投入工数が高い研究
補助・受託事業による研究
3. 基盤的先導的研究 (予算額: 8,615千円)
将来を見込んだ内容の研究
長い期間取り組む内容の研究
夢のある研究

H13～H17のプロジェクト研究・主要研究・基盤研究のトレンド

年度	H13	H14	H15	H16	H17	
テーマ数	プロジェクト外	3	3	9	10	7
	主要	24	19	11	11	12
	基盤	18	17	11	12	11
	合計	45	39	31	33	30
工数	プロジェクト外	6.5	3.7	10.9	11.3	8.1
	主要	18.2	9.7	4.5	5	7.4
	基盤	3	3	3	3	3
	合計(人)	27.7	16.4	18.4	19.3	18.5
予算額 (百万円)	プロジェクト外	18	37	133	189	131
	主要	106	42	20	19	33
	基盤	10	10	8	10	9
	合計	134	89	161	218	173

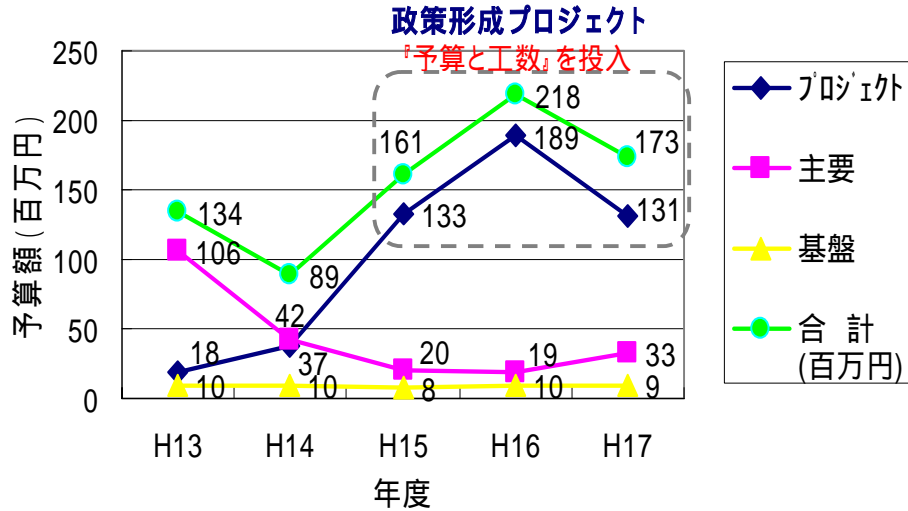
流れ: 基盤先導 主要・プロジェクト 主要・プロジェクト(外部資金)

研究テーマ数



研究予算

予算額のトレンド



H17主要プロジェクト研究一覧(7テーマ)

プロジェクト名	事業名	テーマ名	期間	予算額 (千円)	財源	工数 (人)
ZnO	戦略的技術開発推進事業	ZnO単結晶基板の応用に関する研究	H15～H17	102,533	(令達) 産業振興課	2.8
バイオマス	木質バイオマス消融雪システム実用化研究事業	木質バイオマス消融雪システムの開発	H15～H17	13,230	(令達) 道路環境課	0.5
食品	いわて新ブランド食品創生事業	バイオテクノロジーによる食品機能性解明と加工技術開発	H15～H17	5,875	県単	2.0
環境	産廃再資源化技術開発事業	県境不法投棄物溶融スラグの骨材利用【新規】	H17～H18	5,348	(令達) 資源循環推進課	0.9
自動車	夢県土いわて戦略的研究推進事業	新素材鋳鉄粉末を活用した高機能軽金属複合材料の開発	H15～H17	2,000	(令達) 科学技術課	0.5
	ものづくり基盤技術集積促進事業	Co基耐熱合金を用いた耐熱パネの開発 鋳鉄からの脱マンガン・脱クロム技術の開発	H16～H17 H15～H17	1,000 800	国庫1/2	0.4 1.0
合計				130,786		8.1

*令達：他部局からの受託

・大半が令達(予算の約95%) ・ZnOで約8割

H17主要研究一覧(その他:12テーマ)

事業名	テーマ名	期間	予算額 (千円)	財源	工数 (人)
地域新生コンソーシアム 研究開発事業	プラスチック製低剛性製品の精密測定 技術の構築【新規】	H17	500	受託10/10 採択	0.25
	鋳造複合材料の製造技術開発 【新規】	H17～H18	10,000	受託10/10 申請予定	1.2
先端技術を活用した農林 水産研究高度化事業	冷害被害米の新用途開発	H16～H18	1,800	受託10/10 (東北農研センター)	0.3
	多機能性新規ベリーの産地化技術の 確立と新加工品の開発	H16～H18	2,000	受託10/10 (東北大学)	0.1
ブランド・ニッポン創生事 業	東北地域の硬質小麦を用いた高品質 パン製品の開発	H14～H17	3,000	受託10/10 (東北農研センター)	0.8
NEDO産業技術研究助成 事業	鋳鉄の機械的特性に及ぼす基地組織 の定量的評価	H16～H18	1,500	受託10/10 (東北大学)	0.4
ものづくり基盤技術集積 促進事業	次世代精密金型の高付加価値化技術 の開発【新規】	H17～H18	2,300	国庫1/2	0.5
「吟ぎんが」、「ぎんおと め」ブランド化支援と新ブ ランド開発事業	「吟ぎんが」、「ぎんおとめ」ブランド化 支援と新ブランド開発【新規】	H17～H18	2,000	受託1/2 (酒造組合)	1.0
夢県土いわて戦略的研 究推進事業	新開発Co合金の産業への応用化 技術開発	H16～H17	2,500	(令達) 科学技術課	0.2
	漆液を原料とする簡易塗料と塗装技 術の開発【新規】	H17～H18	2,000	" 申請予定	1.0
支援・研究活動活性化事 業	工業技術センター開発技術・製品の 市場化支援【新規】	H17～H18	3,500	県単	1.0
	未利用木材を活用した緑化用環境資 材の開発【新規】	H17～H18	2,000	県単	0.6
合計			33,100		7.35

・外部資金:63%(77%令達含) ・新規:7/12テーマ(予算:67%)

H17基盤先導研究一覧(11テーマ)

No.	研究テーマ
1	ドライアイスペレットプラストによるトラフィックペイント剥離技術の開発
2	画像計測システムに関する研究(仮題) 自動車関連(金型)
3	木質バイオマス燃料の燃焼特性に関する研究 チップボイラーのフォロー
4	赤ワイン専用品種の選抜試験と発酵抑制原因の栽培法による改善試験
5	ビールを使用した新しい飲料の開発
6	清酒酵母の開発 永遠の課題
7	県北に伝わる豆みそ製造の調査
8	コンパクトMRIを用いた活ウニの非破壊検査システム開発(調査事業) 「夢」
9	県産小麦のパン加工技術に関する研究(ビーアシュタンゲンの多様化について)
10	酵母香り成分の制御と発酵食品への応用
11	県産シソ・エゴマの加工利用に関する調査および技術開発

H17.3.3現在

H17主要プロジェクト研究概要(7テーマ) 1/2

プロジェクト名 (事業名)	研究テーマ		
ZnO 戦略的技術 開発推進事 業	ZnO単結晶基板の応用に関する研究 (H15～H17)		
	[目的] ZnO単結晶基板の用途拡大 [効果] 岩手発新製品開発、新産業創 造と関連産業の集積による雇用創出	[内容] ZnO単結晶基板評価方法の確立と、 SAWデバイス、圧力センサや光通信用光制 御素子など応用製品の開発	[予算] 102,533千円 (令達) 産業振興課 [工数] 2.8
バイオマス 木質バイオマス消 融雪システム実用 化研究事業	木質バイオマス消融雪システムの開発 (H15～H17)		
	[目的] 木質バイオマスエネルギー有 効利用 [効果] 林業及び工業振興、地球温 暖化防止	[内容] 木質ペレットを燃料とした消融雪シ ステム用ボイラーの開発、「道の駅」の暖房と 歩道消融雪の実証実験	[予算] 13,230千円 (令達) 道路環境課 [工数] 0.5
食品 いわて新ブ ランド食品創生 事業	バイオテクノロジーによる食品機能性解明と加工技術開発 (H15～H17)		
	[目的] 「健康・安全・安心」のいわて 新ブランドの確立 [効果] 地場産品の新商品開発、健 康食品市場への参入	[内容] 地域の特産品を用い、老化や糖尿病 の防止などを目的とした機能性食品等の開 発及び麹菌発酵による調味原料を工業的に 製造する技術の確立	[予算] 5,875千円 (一般) [工数] 2.0
環境 産廃再資源 化技術開発 事業	【新規】県境不法投棄物溶融スラグの骨材利用 (H17～H18)		
	[目的] 産業廃棄物の有効活用 [効果] 岩手県の重要課題である二戸 の産業廃棄物処理への貢献、環境ビ ジネスの創出、第二グリーンセンター建設テ ク	[内容] 廃棄物処理施設や鋳物工場から排出 されるスラグを溶融・結晶制御により無害化・ 強度化し、建設資材や舗装材として製造・利 用する技術の開発、特にシャフト炉での溶融 試験と強度不足問題の解決	[予算] 5,348千円 (令達) 資源循環推進課 [工数] 0.9

H17主要プロジェクト研究概要(7テーマ) 2/2

プロジェクト名 (事業名)	研究テーマ		
自動車 : 夢県土 いわて戦略 的研究推進 事業 : ものづ くり基盤技 術集積促進 事業	新素材鋳鉄粉末を活用した高機能軽金属複合材料の開発 (H15～H17)		
	[目的] 軽金属材料の耐久性向上 [効果] 自動車等可動部品の軽量化、 海外生産との価格競争に対抗	[内容] 溶射により軽金属表面に鋳鉄などの 固体潤滑材料をコーティングし、軽くて耐久 性に優れた表面改質技術の開発	[予算] 2,000千円 (令達) 科学技術課 [工数] 0.5
	Co基耐熱合金を用いた耐熱バネの開発 (H16～H17)		
	[目的] 低コストで高性能排気シス テムの実用化 [効果] 地場企業の自動車関連等基 盤技術産業への参入	[内容] 15年度から開始した基礎研究や特性 評価を踏まえ、熱処理条件や合金組成を調 整しながら、650 対応耐熱バネの開発	[予算] 1,000千円 (国庫1/2、一般1/2) [工数] 0.4
鋳鉄からの脱マンガン・脱クロム技術の開発 (H15～H17)			
[目的] リサイクル材を原材料とする鋳 鉄鋳物の品質改善 [効果] マンガンやクロムが多く含まれ 大量に廃棄される鋼リサイクル材の 有効利用	[内容] 鋳鉄溶湯に酸化剤等を添加する酸化 還元法を用いて、マンガンとクロムを除去す る技術の開発	[予算] 800千円 (国庫1/2、一般1/2) [工数] 1.0	

H17主要研究概要(その他:12テーマ) 1/3

事業名	研究テーマ		
地域新生コンソーシアム研究開発事業	【新規】プラスチック製低剛性製品の精密測定技術の構築(H17) H16採択		
	[目的]プラスチック製品の高精度測定技術の構築	[内容]低剛性プラスチック製品の測定圧による誤差抽出と、非接触式と接触式測定法との相関検定	[予算] 500千円 (受託10/10) [工数] 0.25
	[効果]マイクro成形機開発への貢献		
	【新規】鋳造複合材料の製造技術開発(未定:H17~H18) 申請予定		
先端技術を活用した農林水産研究高度化事業	[目的]アリオーム製造・加工技術の確立	[内容]鋳造法・溶融分散法・含浸法・粉末冶金法によるサーメットアリオームの作製と、それらの機械的特性・組成・接合性・高精度加工特性・AD加工特性評価	[予算] 10,000千円 (受託10/10) [工数] 1.2
	[効果]低コスト均一硬度鑄ぐるみ材の開発と製品の多様化		
	冷害被害米の新用途開発(H16~H18)		
	[目的]冷害被害米の品質特性を活かした加工技術の開発	[内容]超高压処理や発芽処理によるGABA等の有用成分の変化を研究し、冷害被害米の付加価値向上、規格外米やくず米を活用した新用途加工食品の開発	[予算] 1,800千円 (受託10/10) [工数] 0.3
先端技術を活用した農林水産研究高度化事業	[効果]東北地域の米の安定生産に寄与		
	多機能性新規ペリーの産地化技術の確立と新加工品の開発(H16~H18)		
	[目的]耕作放棄地あるいは遊休農地等の有効利用と果実の自給率向上	[内容]果実中のビタミン類等多機能性成分の解析、種子のオイル利用方法の検討、新鮮果実及び加工品のグリケーション抑制能など生理機能性の測定	[予算] 2,000千円 (受託10/10) [工数] 0.1
	[効果]中山間地の果樹生産振興に加え、地域にとっての新産業創出		

H17主要研究概要(その他:12テーマ) 2/3

事業名	研究テーマ		
ブランド・ニッポン創生事業	東北地域の硬質小麦を用いた高品質パン製品の開発(H14~H17)		
	[目的]国内産小麦の消費拡大	[内容]パン用新品種「ハルイブキ」と「ゆきちから」を従来パン用品種と混合比を変えたパン製造技術の確立	[予算] 3,000千円 (受託10/10) [工数] 0.8
	[効果]高品質パン製品の開発		
NEDO産業技術研究助成事業	鋳鉄の機械的特性に及ぼす基底組織の定量的評価(H16~H18)		
	[目的]電磁非破壊鋳鉄検査技術の確立	[内容]鋳鉄中の黒鉛形態や孔組織含有率との定量的相関評価	[予算] 1,500千円 (受託10/10) [工数] 0.4
	[効果]自動車用高機能鋳鉄の組織制御評価手法の開発		
ものづくり基盤技術集積促進事業	【新規】次世代精密金型の高付加価値化技術の開発(H17~H18)		
	[目的]梨地面形状の離形膜作製技術の開発	[内容]100mm、300mm サンプルでの金型表面の基礎解析と離形膜形成	[予算] 2,300千円 (国庫1/2、一般1/2) [工数] 0.5
	[効果]半導体チップ用金型の製造、ベンチャー企業立ち上げ		
「吟ざんが」、「ざんおとめ」ブランド化支援と新ブランド開発事業	【新規】「吟ざんが」、「ざんおとめ」ブランド化支援と新ブランド開発(H17~H18)		
	[目的]「吟ざんが」、「ざんおとめ」を用いた清酒のブランド化、消費者ニーズ対応商品開発	[内容]「吟ざんが」、「ざんおとめ」を用いた清酒の米質調査(浸漬割れ対策)及び技術支援、低グルテン米試験による純米酒開発	[予算] 2,000千円 (受託1/2、一般1/2) [工数] 1.0
	[効果]吟ざんが・ざんおとめ清酒の消費拡大		

H17 主要研究概要 (その他: 12テーマ) 3/3

事業名	研究テーマ		
夢県土いわて戦略的研究推進事業	新開発Co合金の産業への応用化技術開発 (H16～H17)		
	[目的] Co合金の研削加工技術と切れ味定量評価技術の確立	[内容] 放電プラズマ焼結法などによる材料配合検討と、理美容鋏のノリを応用した医療用鋏の試作	[予算] 2,500千円 [令達] 科学技術課
	[効果] Ni7リ-理美容鋏と非磁性医療鋏の開発		[工数] 0.2
	【新規】漆液を原料とする簡易塗料と塗装技術の開発 (H17～H18)		
	[目的] 速乾性及び量産化漆の商品化	[内容] 塗料調整による短時間硬化及び量産化の検討、合成樹脂の添加なしの検討、工業製品等への実用化検討	[予算] 2,000千円 [令達] 科学技術課
	[効果] 低環境負荷の漆の需要拡大		[工数] 1.0
支援・研究活動活性化事業	【新規】工業技術センター発開発技術・製品の市場化支援 (H17～H18)		
	[目的] 技術・製品の市場展開	[内容] 当センターが開発に関与した技術や製品を商品化するための数事例を通じた市場化調査・分析ノウハウの蓄積	[予算] 3,500千円
	[効果] 新しい県産品の販売額増加		[工数] 1.0
	【新規】未利用木材を活用した緑化用環境資材の開発 (H17～H18)		
	[目的] 緑化用環境資材の開発	[内容] 透水性コンクリートに未利用材を活用して保水性を備えた環境資材の成型技術の確立と実証化試験	[予算] 2,000千円
	[効果] 新規護岸コンクリートの出荷額増と自然景観保存		[工数] 0.6

5 計量検定業務

(1) H16実績

- ・ 平成11年計量法改正で、県の必置義務消滅
- ・ 人員削減(8人→5人)、業務削減により検定業務をセンターに移管
- ・ はかりの定期検査業務の指定定期検査機関委託で業務量削減

年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度 (計画)	
実施機関	計量検定所	計量検定所	計量検定所	工技センター	工技センター	
定期検査業務	3,185	3,166	3,062	0	0	
検定・検査業務	4,668	5,160	4,756	4,377	3,198	
内訳	タクシーメーター	2,862	2,883	3,043	3,131	2,772
	質量計	105	54	81	25	27
	体積計	1,701	2,223	1,632	1,221	399
計	7,853	8,276	7,818	4,377	3,198	

(2) H17計画

H18を目標に、検定等の補助業務を民間団体に委託準備

検定・検査業務を民間へ移行するための検定・検査手順
マニュアルの整備

タクシメーターの検定制度(技術基準)の導入による
事業者への監視強化

消費者基本法第13条の「計量の適正化」に対応した
体制の整備

計量研修センターによる教習受講のための体制の確保

6. 知的財産権

(1) 工技センターの状況

H16

出願件数11件(目標は10件)

- ・都市エリア・地域コンソーシアムなど大型研究の成果
- ・開発要素の高い企業支援の効果

実施契約5件(目標4件)、収入25万円(目標50万円)

- ・実施料収入はペレットストーブ目標未達成で減

出願・実施契約件数	H13	H14	H15	H16	H17 (目標)
知財出願件数	12	10	6	11	14
実施契約件数	4	7	3	5	5
実施料収入 (千円)	17	16	250	250	500

H17

- ・意識向上と特許掘り起こし
- ・研究報告評価時に第三者による特許可能性評価

(2) 関連機関と連携した県民の知財意識高揚支援

H16

知的所有権センターとの連携

- ・企業訪問活用のため定期的に連絡会開催
- ・知的財産活用促進事業の開始(実施10件)

発明協会との連携

- ・県内企業の知的所有権の意識高揚、発明協会の認知度向上のため講演等で紹介
- ・「いわて発明くふう展」を当センターの一般公開と併催
特に参加児童から好評

H17

知的所有権センターとの連携

- ・弁理士会・発明協会などと知的財産活用基礎講習会実施
- ・知的財産活用促進事業の拡大(目標20件)

発明協会との連携

- ・「いわて発明くふう展」当センターの一般公開と併催継続
9月30日(金)～10月1日(土)
- ・少年少女発明クラブとの連絡会 定例化

7. 外部機関との連携

(1) 大学等との連携(学との連携)

H16実績:センターの研究推進につながる学生受入8名
共同研究13件

大学等の共研	H14	H15	H16	H16の例
受託研究	4	5	7	先端技術活用農林水産研究高度化
委託研究	1	6	5	ZnO3件、県境産廃2件
ゼロ円	0	0	1	都市エリア「Co基金」
計	5	11	13	

H17計画:産学官連携コーディネータ研究会の開催(新規)

(2) 産業支援機関及び産業界との連携(産官との連携)

H16実績:地方振興局との懇談会2回開催(新規)

H17計画:地域と連携した産学官交流会等開催(新規)

(3) 北東北公設試との連携(広域連携)

H16実績:技術連携推進会議5回開催

H17計画:3県公設試間で人事交流(新規、2名ずつ)
共同研究2件(新規)

(4) 競争的開発研究資金への提案支援

H16実績:センター提案6件採択、企業提案支援4件採択

採択	H14	H15	H16	H16の例
センター	3	4	6	農水省、産総研、NEDO、夢県土
企業支援	不明	4	4	経産省、県、産業振興センター
計		8	10	

H17計画:経産省地域新生コンソーシアム研究開発
新連携対策補助
中小企業技術革新成果事業化促進 など

8. 環境管理(ISO14001)・安全衛生管理

(1) 環境管理

H16年 3年目の更新審査を受け、認証された

- 文書体系のスリム化
- 審査員所見
 - 節電等直接影響の効果大
 - 研究・支援の成果の目標設定は、公設試として優れたシステム

H17年 ISO14001(2004)への対応

- 研究成果の評価方法の検討(例:CO₂抑制量)
- 新(代替)エネルギー、省エネ研究の検討

主要な目標(実績)

項目	H14	H15	H16	H17(目標)
環境関連テーマ割合 %	26	40	40	35
ニーズ調査(企業訪問)	610	638	370	300
化学物質保管量 : kg	4,336	3,706	3,650	3,650
産業廃棄物排出量 : kg	4,224	3,468	1,788	3,000
電気使用量 : 千kwh	2,416	2,280	2,142	2,400

(2) 安全衛生管理 労働災害・交通事故 ゼロの継続

安全と健康の確保及び快適な職場環境形成促進のため
以下を実践する

安全衛生委員会の定期開催(4月、8月、12月)

所内安全パトロールの実施(6月)

消防訓練の実施、緊急時対応訓練の実施(10月)

交通事故・違反防止のための交通安全教育の実施(7月)

及び意識啓発(随時)

健康診断等による健康管理の充実(随時)

災害(事故)等の発生状況

事故等の区分	H13	H14	H15	H16	H17 目標
労働(公務) 災害	0	1	3	0	0
交通事故(加 害)	1	1	0	0	0

9. 付属資料

(来訪者数のトレンド等)

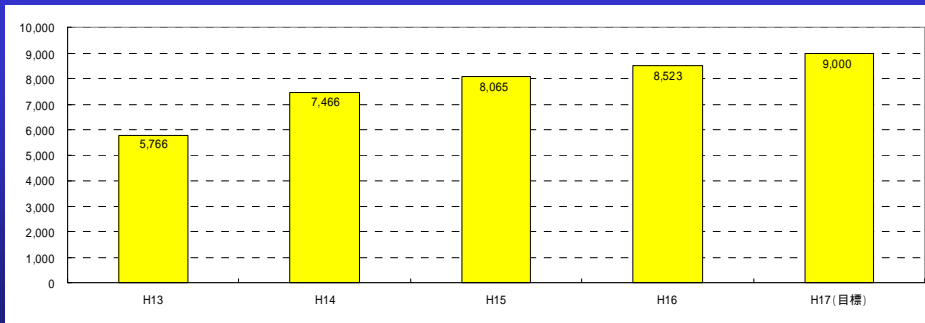
来訪者数のトレンド

(1) H16年度

共同研究企業が増加し研究者が来所する日数が
多くなったことにより増加

(2) H17年度

振興局との連携・タイムリーな情報提供で来訪者増加



職員表彰

区分 年度	岩手県職員表彰 (業績顕著者)	岩手県部局長表彰	工業技術センター所長表彰
H14	・穴沢 靖 上席専門研究員 (低温環境下で使用可能な水系下塗り塗料の開発に取り組み、その実用化に貢献)	・齋藤 貴 主任専門研究員 ・鎌田 公一 (世界最高の性能(従来の5倍以上)を持つ超電導材料を開発し、今後の超電導材料技術の確立に貢献)	・手作りビデオ製作委員会(7名) (工業技術センターを紹介するビデオをバージョンアップ可能で、コストを削減した手作りで製作し、他の模範となる取り組みに貢献)
H15	・佐々木英幸 上席専門研究員 (トリアジンチオール化合物を用いる金属とプラスチックの直接接着を研究開発し、本県の産業の振興に貢献) ・浪崎 安治 上席専門研究員 ・有賀 康弘 ・高橋 民雄 産業短大助教授 (象嵌裝飾体の製造方法の開発及び普及を行い、本県の産業の振興に貢献)	・岸 敦 主任専門研究員 ・伊藤 良仁 (畜産未利用資源からの有用成分の抽出に関する研究を行い、実用化に達する畜肉加工用調味液の開発に貢献)	・佐々木 博昭 主任 (機器利用手続き改善による、利用件数と手数料増加に貢献、設備補修予算の獲得) ・三浦 通利 上席専門研究員 ・瀬川 晃児 (依頼分析業務において、センター始まって以来、最高の実績をあげたことに貢献)
H16	・園田 哲也 専門研究員 ・堀田 昌宏 主任専門研究員 ・東矢 恭明 専門研究員 ・田中 慎造 産業短大水沢校教授 (いわて型ハレットストップを、民間企業と共同で開発し、地域にある自然エネルギーの複合的な利用の実現に貢献)	・三浦 通利 上席専門研究員 ・瀬川 晃児 (依頼試験・分析等に専従し企業等の支援に尽力するとともに、依頼試験件数及び手数料収入の増加に貢献) ・町田俊一 特産開発デザイン部長 地場産品へのユニバーサルデザイン導入に関する研究・開発を行い、企業への技術支援、販路開拓等に貢献	・ネットワーク委員会メンバー (所内LANから県庁ネットワークへのスムーズな移行に貢献) ・笹島 正彦 主任専門研究員 (ISO14001の更新に貢献) ・梅澤 貴次 主事 (特管廃棄物処理に精力的に取り組む貢献) ・久慈 省一郎 主任技師 (担当業務・職位に精励し収入等について貢献)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
予算	外部評価・予算要求	HP公開	資料作成	所内検討	産振課	商工部長	評価調書・予算書	部会	商工企画	HP公開		内示	推進会議
研究	外部資金研究	夢県土決定	農水決定	コンソ決定	NEDO決定								各種申請
	研究総括	成果集					進捗評価		進捗評価				進捗評価
支援	センター発ベンチャー	事業継続		報告会			報告会		報告会				評価委員会
	テカブリッジ	長期開始 短期開始			決定(2次)						次年度募集開始		次年度決定
	企業訪問 依頼試験 技術相談	・企業訪問(計画分は7月までに8割達成) 要望は随時受け付け・依頼試験・技術相談・機器貸付は随時受け付け											
	知財関連事業	県知財事業・弁理士普及事業											
広報	成果発表会	発表会(5/13)	地域発表会(5ヶ所)				一般公開(9/30-10/1)						
	研究報告業務年報丸ごとガイド	作成・審査	編集・発行	送付									
その他	主な会議		北東北連携		北東北連携		北東北連携		北東北連携		北東北連携		北東北連携
	環境ISO	管理委員会			管理委員会		内部監査	管理委員会	所長見直し		管理委員会	外部審査	
	安全衛生管理	安衛委員会		所内パトロール		安衛委員会		消防訓練・緊急時訓練		安衛委員会			
	発明協会行事		支部総会	全国総会			発明工夫展						全国表彰推薦